

第2回シンポジウム開催のお知らせ

“名古屋シンポジウム”

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
(JAICOWS) & 愛知女性研究者の会 共催

「女性研究者とキャンパス・セクシュアル・ハラスメント」

日時: 1996年12月14日(土)午後1時半から4時半
場所: ウイルあいち(愛知県女性総合センター)
☎052(962)2511-3
資料代: 500円

===== プログラム =====

開会挨拶 一番ヶ瀬康子
(前日本学術会議会員, JAICOWS会長, 東洋大学)

「学術会議・JAICOWSの取り組み」 島田淳子
(日本学術会議第6部会員, お茶の水女子大学)

「セクハラ裁判のなかで考える」 小野和子
(京都橋女子大学)

「愛知女性研究者の会 “大学におけるセクシュアル・ハラスメント実態調査”」 吉田あけみ
(南山短期大学)

「セクシュアル・ハラスメントと女性研究者の人権」 武田万里子
(金城学院大学)

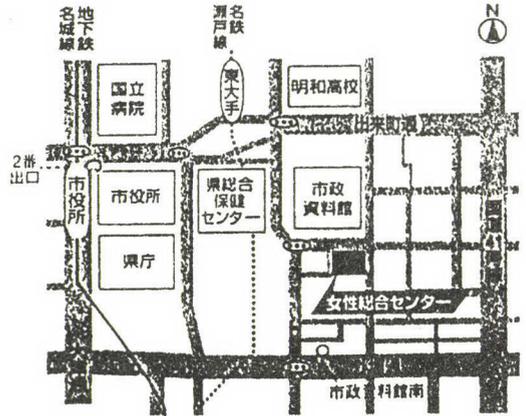
[ディスカッション]

まとめと閉会の挨拶 安川悦子
(前日本学術会議会員, 名古屋市立女子短期大学)

司会 原ひろ子(お茶の水女子大学)
吉田啓子(市邨学園短期大学)

シンポジウム終了後5時半より懇親会を行います。会費は5000円です。参加を希望される方はできる限り12月5日までにお申し込みください。

- 会場まで:
- ・地下鉄「市役所」駅2番出口東へ徒歩約10分
 - ・名鉄瀬戸線「東大手」南へ徒歩約8分
 - ・基幹バス「市役所」東へ徒歩約10分
 - ・市バス幹線20 名古屋駅-上飯田町「市政資料館南」北へ徒歩約5分



〈問い合わせ先および懇親会申し込み先〉

- ◎愛知女性研究者の会
〒474 大府市横根町名高山55
中京女子大学健康科学部 藤沢研究室
☎ (0562)46-1292 (内線 373)
- ◎女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
〒112 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学生活科学部 島田研究室
FAX (03)5978-5760

JAICOWS編 「女性研究者の可能性をさぐる」

(ドメス出版) 1996年10月刊行予定

一番ヶ瀬康子

昨年末のシンポジウムの記録を中心にし、下記のような内容の本が刊行されます。乞ご期待とともに、ご宣伝、ご販売のほどよろしくお願ひします。

『女性研究者の可能性をさぐる』(ドメス出版)

- 一 女性科学研究者の環境改善をめざして
 - 1 JAICOWS(女性科学研究者の環境改善に関する懇談会)とは 一番ヶ瀬康子
 - 2 女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言(94.5)
 - 3 日本学術会議への要望書
- 二 シンポジウム・女性研究者の環境改善をめざして
 - 1 女性の理工系分野への進学とその背景・大学婦人協会の調査から 田中正子
 - 2 女性科学研究者への期待 猿橋勝子
 - 3 女性科学研究者に期待するもの・これまでの調査を踏まえて 板東昌子
 - 4 女性研究者の環境改善に対する期待 原ひろ子

5 三省庁からのコメント

◆女性研究者の現状に関する基礎調査から
科学技術庁 市橋正生

◆アメリカの女性研究者の現状
文部省 板東久美子

◆厚生省における女性研究者の場合
厚生省 伊藤雅治

6 会場発言から

7 シンポのまとめ

三 資料編

1 女性の理工系分野への進学とその背景(大学婦人協会 95.3)

2 科学研究におけるジェンダーの問題(安川悦子 95.5)

(180頁, 予定1500円, ドメス出版)

月刊『学術の動向』10月号

「女性科学研究者」特集号発行のお知らせ

- 女性科学研究者についての情報満載 -

島田淳子

日本学術会議は、従来その活動内容を学術会議月報によりお知らせしてきましたが、本年4月よりこれを月刊『学術の動向』へと切り替わりました。『学術の動向』はA4版で約100頁、情報メディアとしての性能はぐんとレベルアップしています。

発行は日本学術協力財団、編集委員長は第5部副部長の大橋秀雄工学院大学学長、1～7部までの各部から委員が出ており、顧問は日本学術会議副会長利谷信義お茶の水女子大学教授です。島田も編集委員です。毎号執筆者名の欄にぜひ女性の名前を入れたいと思っています。すでに何名かの方にはご無理なお願いをしてご執筆いただき、本当にありがとうございました。みなさまもご協力ぜひよろしくお願い致します。

さて、来たる10月号は「女性科学研究者」特集号です。利谷副会長と、JAICOWS役員としてご活躍の浅倉むつ子、大野淑さんに座談会「明日を拓く女性科学研究者」をしていただきました。女性研究者を取り巻く諸問題に鋭いメスを入れています。また、猿橋勝子先生、安川悦子先生を始め、多くの方々から貴重な提言を頂いています。学術会議の女性科学研究者に関する声明、その他の活動

内容がすべて網羅されているほか、女性科学研究者の実態に関する情報も掲載されています。これについては原ひろ子お茶の水女子大学ジェンダー研究センター教授の全面的なご協力を頂きました。いうならば、現代女性科学研究者事典といってもよいでしょう。(ちょっとほめ過ぎ?)ともあれ、男女を問わず多くの方々にぜひ御一読頂きたいと思います。

なお、月刊『学術の動向』領価は、1部¥700、一年間定期購読は¥7500(税・送料込み)です。

お申込みは日本学術協力財団、☎(03)3403-9788、FAX (03)5410-1822まで。

【海外の話題】『学術の動向』10月号より

大隅正子

近年、女性科学者のあらゆる分野での活躍がめざましいが、その先駆者である猿橋勝子先生が世界の女性科学者の中から選ばれた10人の中の1人として、Lisa Yount著“Twentieth-Century Women Scientists”の中で紹介されている。私達日本人女性科学者としては誠に喜ばしいことである。

そこで、上の書中で紹介されている、猿橋先生の紹介記事の要約を以下に紹介する。

科学者の中には、地球の未来は大変暗いのではないかという者もいる。地球の気温上昇により、極地の氷冠が溶ける結果、海面は上昇し、沿岸の都市は埋没し、農地全体が砂漠化する恐れがあるというのである。このようなことが起こるかもしれないのは、地球大気中の二酸化炭素(CO₂)が現在増加しつつあるからである。CO₂の増加の大部分は、石炭や石油などの化石燃料を人間が燃やしたことにより生じたものであろう。CO₂は、太陽輻射熱が地球大気から宇宙へ放射するのを妨げるので、CO₂の増加は地球の温度上昇を招くだろう。この「温室効果」が起こる確率と、実際起きた場合に、どの程度深刻なものになるかについては、科学者の見解は一致していない。だが、温室効果に対する懸念から、地球化学者は近年大気中のCO₂の量を注意深く観察するようになった。しかし、45年前には猿橋勝子という日本人科学者を除いては、大気中のCO₂について深く考える人はいなかった。

CO₂を空気中からとりこみ、且つ、空気中へ放出する性質がある海水中のCO₂の行動に関する初期の研究を猿橋は行った。彼女はまた、核実験によって生じる放射性降下物の危険を示す調査研究をした。

猿橋は、地球化学の先駆的な研究業績により、数々の賞を受賞した。1980年、日本学術会議に女性として初当選し、1981年には、「原子力の平和的利用についての研究と女性科学者の地位向上に対する努力」により、エイボン女性大賞を受賞した。さらに、1985年には地球化学研究協会学術賞・三宅賞を受賞した。現在まで、猿橋以外にこの賞を受賞した女性はいない。最近では1993年に、日本海水学会から田中賞を受賞した。現在は、日本地球化学会と日本海洋学会の名誉会員を務める。

これまで受けた数々の賞よりも、猿橋にとってははるかに重要なのは、彼女が女性科学者のために1980年に創設した賞である。この賞は、彼女が気象研究所地球化学研究部長を退官した際に寄せられた祝金から生まれた。彼女はその全額を「女性科学者に明るい未来をの会」の設立基金にあてた。

本会の目的の一つは、日本の女性科学者のおかれた‘暗い状況’に、ひとすじの光をあてることであった。それ以前にも彼女は、1958年に女性科学者の組織として、「日本婦人科学者の会」を創立していた。猿橋賞は、自然科学の分野で顕著な研究業績をあげた50歳未満の日本人女性科学者一名に毎年与えられるものである。賞金は比較的少額だが、本賞がもたらす高い評価こそが、この賞の主たる価値なのである。

【科学研究費補助金交付について】

原ひろ子

平成8年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))による「科学研究者の環境に関する調査研究-男女比較を中心に」(課題番号08301023)の申請をしておりましたところ、交付されました。平成9年度に関しても内定が参りました。

研究の目的: 戦後50年を経過した今日、4年制大学に学ぶ女性は3割、大学院に学ぶ女性は2割となったが、4年制大学の女性教員は、まだ1割を占める程度にすぎない。依然として学術研究に女性が占める割

合は少数である。このような状況に照らして、われわれの研究は、平成6年5月の日本学術会議の女性科学研究者についての提言を具体化することを目標に、女性科学研究者をとりまく研究環境の実態を男女比較調査を通じてあきらかにして、その改善のための方策を検討する。

われわれの研究集団としての特色は、学術会議の7部門に分けられた全ての学問分野に所属する女性研究者が参加していることである。その強みを活かし、この調査研究は、(1)各学会における諸活動への男女の参画状況の調査、および(2)各学会に所属する男女研究者個人を対象とするアンケート調査を実施し、さらに(3)少数例の聞き書きを行う。この3種類の方法を用いて、学会別に男女研究者育成体制が施行されている際の決定要因をさぐる。

平成8年度: アンケート調査および学会別状況調査の実施。

平成9年度予定: 少数例の聞き書きおよび諸資料の調査結果の分析。

研究組織: 研究代表者 原ひろ子。

研究分担者 浅倉むつ子、池田裕恵、石井摩耶子、一番ヶ瀬康子、岩崎芳枝、大隈正子、大野淑、垣本由紀子、加藤春恵子、木野内清子、玄番央恵、小島操子、島田淳子、島村礼子、下村道子、田端光美、土器屋由紀子、鳥居淳子、直井道子、永井玲子、丹羽雅子、馬場房子、森島啓子。

以上、24名。

【活動報告(1995年9月~1996年9月)】

石井摩耶子

- ◇1995年9月15日 ニュースレター創刊号発刊。
- ◇1995年9月29日 第4回役員会(シンポジウム準備、勉強会の計画、未加入者への対応)。
- ◇1995年11月4日 第5回役員会(シンポジウム準備、科学研究費補助金申請の件)。
- ◇1995年11月4日 第2回勉強会「女性研究者への期待-これまでの研究をふまえて-」
お話: 猿橋勝子・板東昌子先生。
出席者約30名。終了後懇親会。

- ◇1995年11月 -- 平成8年度科学研究費(総合研究 A「科学研究者の環境に関する調査研究-男女比較を中心に-」(研究代表者 原ひろ子)申請。
- ◇1995年12月15日 シンポジウム「女性科学研究者の環境改善をめざして」(日本学術会議と共催)開催。
シンポジスト: 田中正子・猿橋勝子・板東昌子・原ひろ子の各先生。
コメント: 市橋正生(科学技術庁科学技術研究所上席研究官)・板東久美子(文部省生涯学習局婦人教育課長)・伊藤雅治(厚生省審議官)の各氏。
- ◇1996年1月5日 日本学術会議第二常置委員会に対して「要望書」提出。
(第15期総会における「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言」の早期実現、とくに科学研究費の申請者枠拡大と不服申立制度の確立を要請)。
- ◇1996年2月2日 第6回役員会(要望書の具体的な申入内容、新刊の『学術の動向』に毎回寄稿する件)。
- ◇1996年2月15日 上記要望書について役員会と日本学術会議第二常置委員会との話し合い。
- ◇1996年4月2日 第7回役員会(要望書提出後の動き、総会準備)。
- ◇1996年4月2日 第3回(定例)総会。
- ◇1996年4月18日 要望書についてその後の経過報告を、第二常置委員会の中塚明委員長より聞く。
- ◇1996年4月 -- 『学術の動向』創刊号に一番ヶ瀬会長のJAICOWSについての原稿掲載される。以後、毎号にJAICOWSメンバーの寄稿開始。
- ◇1996年5月17日 文部省に申請中であった平成8年度科学研究費補助金交付内定(平成8年度820万円、9年度680万円)に伴い、交付申請書を提出。
- ◇1996年5月17日 第3回勉強会 テーマ:「若手女性研究者の状況と問題点について」。
お話: 佐藤豪先生(日本学術会議「研究者の要請・確保と教育」特別委員会委員長)。
- ◇1996年6月5日 第8回役員会(科研費交付内定により、研究組織スタート、第2回シンポジウムを1996年12月14日名古屋で開催することを決定)。
- ◇1996年7月26日 第9回役員会(ニュースレター第2号の内容、『学術の動向』10月号“女性科学研究者特集”の件)。
- ◇1996年7月26日 科学研究費プロジェクト打合せ会。
- ◇1996年9月13日 第10回役員会(名古屋シンポジウム《愛知女性研究者の会と共催》準備、次回総会は1997年3月31日開催の予定)。
- ◇1996年10月15日 ニュースレター第2号発刊。

【第4回総会のお知らせ】

日時: 1997年3月31日(月) 15:00~17:00

場所: 日本学術会議
東京都港区六本木7-22-34
地下鉄千代田線「乃木坂」駅下車、青山
霊園方面出口徒歩1分
Tel: (03)3403-6291

報告事項: (1) 1996年度活動報告
(2) 1996年度会計報告
(3) 1996年度会計監査報告
(4) その他

協議事項: (1) 1997年度活動報告
(2) 1997年度予算案
(3) その他

訃報

会員のお二人が逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。

大谷陽子(6部, 1995年12月8日)

篠塚則子(5部, 1996年2月21日)

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会
Japanese Association for the Improvement
of Conditions of Women Scientists)

【連絡先】 島田淳子

〒112 文京区大塚2-1-1.

お茶の水女子大学生活科学部

Tel: 03-5978-5761, Fax: 03-5978-5760.